

共につくる喜び

代田中学校
令和6年11月

合唱コンクール



10月30日(水)、文化会館で合唱コンクールを開催しました。今年は、全クラスそろってコンクールを行うことができました。審査員長に御津中学校校長の峯村先生をお迎えしました。

私は合唱コンクールまで、いろいろなクラスの練習を見に行きました。はじめのうちは、それぞれのパートの音が微妙にずれていて、歌っている人たちの表情もさえませんでた。

10月22日(火)に行われた校内リハーサルでは、全クラスの合唱を聞きました。どのクラスも一応合唱にはなっていました。それでも、それぞれ自分のパートを歌うのに一生懸命で、互いの音を聞き合うことができていないように感じました。

しかし、さすが代中学生。毎年そうですが、本番では校内リハーサルから格段に上手になっていて、本当に驚きました。どのクラスの歌声も、聞いている人の心を動かす素晴らしいものとなっていました。特に、峯村先生もおっしゃられていたように、3年生の歌には、心が震えました。

合唱コンクールでは、私は次のような話をしました。

いよいよ合唱コンクールが始まります。

校長室にいますと、3階の音楽室から歌声が聞こえてきます。

はじめは、かすかな音です。だんだん大きな音が聞こえてくるようにな



りますが、どんな歌かよくわかりません。一人一人が出す音がばらばらで、濁った音です。それが、日がたつにつれ、それぞれが確かな音をつかんで、パートごとに声がそろってくるのを感じます。コンクール間近になると、互いの声が響き合い、美しい音が3階から下りてくるようになります。

私が3年生を担任したときのことです。コンクールまであとわずか、クラス全体が「金賞とるぞ」と盛り上がっているとき、ある生徒、Aさんが生活ノートにこんなことを書いてきました。

歌には全く興味ないし、やりたいと思わない。クラスで別に歌いたいとは思わないし、金賞もとりたいたいとは思わない、という気持ちを変えるために一生懸命がんばりたいと思う。

でも、どうしたらそんなに熱心になれるのか、いまいよくわからない。

本当に正直に書いてくれたと思います。Aさんは、できればやりたくない合唱だけど、逃げることなく向き合おうとしているんだなと感じました。隣で一生懸命歌う仲間の気持ちはわからない、でも、わかるようになりたい、そういう切実な気持ちも伝わってきました。

クラスには、いろんな人がいます。歌が得意な人もいるだろうし、苦手な人もいます。音楽が好きな人も、そうでない人もいることでしょう。Aさんと同じように「クラスで歌いたいと思わない」という思いをもっている人もいたのかもしれませんが、また、一方で「朝から練習しようって言っているのに…」、「いつになったらやる気になるの」「みんなでがんばろうよ」と、怒ったり、涙を流したりした人もいたのではないでしょか。

それでも、それぞれのクラスで起きている問題を自分たちで何とか乗り越えようと努力して、今日の日を迎えたことと思います。

今から歌う数分間、このときのために練習してきました。互いの声を聴きながら、息遣いを感じながら、今できる最高の合唱を聞かせてください。



ぜんこう
全校での校歌合唱

